

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 9 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330066

研究課題名(和文) 経済思想史における人口・貧困・福祉：国際比較研究

研究課題名(英文) Population, Poverty, and Welfare in the History of Economic Thought: An International Comparison

## 研究代表者

渡会 勝義 (Watarai, Katsuyoshi)

早稲田大学・政治経済学術院・名誉教授

研究者番号：80097196

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：経済学の歴史において、人口は国民の貧困や福祉に重大な影響を与える要因として、常に注目されていた。本研究ではこの視点を各国比較の参照枠として捉え、フランス、イタリア、インドなどを具体的に取りあげた。その結果、現在の経済学では所与と捉えがちな人口という条件が、人々の生活(つまり貧困や福祉)にいかに関与を与え続けてきたか、という歴史的な教訓を再確認することができた。科研費メンバーはそれぞれ、リヨン(フランス)、サレント(イタリア)など各地に赴き、現地の研究者と交流することで、今後、この論題を発展する手がかりをつかむこともできた。

研究成果の概要(英文)：Population has been considered as important in the history of economic thought, as it had great impacts on poverty and welfare of human beings. This study inherits the properties of the research tradition, takes up some examples such as the cases in France, Italy, and India as an international comparison.

As the results, we reaffirm that the conditions regarding population, which is apt to be given in modern economics, had ground impacts on human life, that is, their poverty and welfare. It is a historical lesson. The members went to abroad cities such as Lyons, France and Salento, Italy, exchanges their academic knowledge with the local scholars, and finally took their cue to advance their own arguments.

研究分野：経済学史

キーワード：人口 貧困 福祉 経済思想

## 1. 研究開始当初の背景

人口と貧困・福祉の関連は、特にイギリスの経済思想の歴史において系統的に考察されてきたが、他の諸国においても独自の考え方や歴史的条件のもとで語られてきた。

しかし、フランス、イタリア、インドなどではどのような思想が展開していたか、必ずしも明らかではない。

このような状況のもと、本研究は国際比較をするべく、まずは研究代表者を中心に、4名の国内の研究分担者を組織した。

ついで、海外にその連携を求め、特にイタリア、フランス、インド、アメリカ、イギリスなどに点在する専門家を、日本(特に早稲田大学)およびリヨン、ロンドンなどを拠点として、研究者どおしを結びつけることを企図した。

## 2. 研究の目的

経済学および経済思想の歴史において、人口は国民の貧困や福祉に重大な影響を与える要因として重視されてきた。

様々な条件と思想のもとで展開されてきた貧困と福祉をめぐる諸考察を、人口との明示的な関連の下に国際的な比較研究をすることにより、同じ問題に対する思想と方法の多様性とその根底にある共通性を明らかにし、政策や社会の構想に資することを目的とする。

## 3. 研究の方法

各国の経済思想に詳しい研究家を探し当て、それぞれの文脈で研究報告をしてもらう。この国際ワークショップに、各国の経済思想を扱う人々が集い、人口という統一的な視点から貧困と福祉を考察する。

## 4. 研究成果

第1に、マルサス生誕250年記念の国際会議(2016.3.16;福岡大学)である。マルサス学会の主催であるが、本科研費もプログラム骨子の制定から関わり、外国人招聘者や日本人討論者の旅費を支弁するなど、大きく貢献した。特に、Gilbert Faccarello (Universite Pantheon-Assas, France)氏による記念講演「The reception of Malthus in France」は大きな成功となった。

第2に、「経済思想史における人口・貧困・福祉：国際比較」国際ワークショップ(2016.3.18;龍谷大学)である。上記の国

際会議と連動する形で、場所を福岡から京都に変えて、別の国際ワークショップを主催した。ここに University of Salento から Claudia Sunna 氏を、University of Lecce から Cosimo Perrotta 氏を招聘することができた。それぞれ、Population and Development: An Overview、Different views among early underconsumption theories という題目で研究報告をしてもらった。

科研費メンバーは司会・討論者などの形で上記2つの国際会議に関わり、最終年度として、これまでの集大成となるような研究上の知見を交換できた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)代表的のみ

小峯 敦、Beveridge and his Pursuit of an Ideal Economics, International Journal of Social Economics, 2017, forthcoming, 査読あり

仲北浦淳基・小峯敦、ロバートソンのケインズへの書評、経済学論集、55(1/2)、2016、49-66、査読なし

新村 聡、アダム・スミスの平等論と分配的正義論、立教経済学研究、69(4)、2016、49-67、査読なし

新村 聡、ホッブズにおける近代的平等論の成立、岡山大学経済学会雑誌、47(3)、2016、47-63、査読なし

石井 穰、ジョン・バートンにおける人口と貧困、マルサス学会年報、24、20015、107-134、査読あり

石井 穰、マルサスにおける機会導入と雇用、関東学院大学経済学系、262、2014、40-52、査読なし

江里口 拓、L.T.ホップハウスの福祉政策論と経済思想、西南学院大学経済学論集、49、2014、1-26、査読なし

小峯 敦、『ベヴァリッジ報告』(1942)と『雇用政策』白書(1944)、経済学論集、53(1/2): 37-97、2014、査読あり

[学会発表](計15件)

小峯 敦、LSE's Federalism during the Wars, International Seminar, 2016.3.7, Salento University, Italy

小峯 敦、The LSE's Federalism during the Wars: Robbins's and Beveridge's Liberalisms, The 4th Eshet-Jshet Joint

Conference, 2015.9.11, Otaru College of Commerce

江里口 拓, Sidney and Beatrice Webb on free trade and national minimum: a proposal of international order for the coming age of welfare states, The 4th Eshet-Jshet Joint Conference, 2015.9.13, Otaru College of Commerce

石井 穰, J. R. McCulloch on the Effect of Machinery, UK HET conference, 2015.9.3, Manchester Metropolitan University

渡会 勝義, The General Glut Theory of Thomas Robert Malthus Revisited, Eshet Conference, 2015.5.14, Universita di Roma 3

渡会 勝義, The General Glut Theory of Malthus, Conference on Population, Poverty, and Welfare in the History of Economic Thought, 2015.3.11, Waseda University

石井 穰, Malthus on Machinery: with Regard to the Compensation Theory of Machinery, International Ricardo Conference, 2015.3.6, Teiruru, Naha

石井 穰, A Study by John Barton on Population and Poverty, HES conference, 2014.9.4, Westminster University

新村 聡, Adam Smith as Egalitarian: Responses to Rousseau's and Hume's Critical Inequality, HES Conference, 2014.6.21, University of Quebec, Canada

小峯 敦, Beveridge and his Pursuit of an Ideal Economics, ESHET conference, 2014.5.31, University of Lausanne, Switzerland

渡会 勝義, Kinjiro Ninomiya's Economic Thought and Recovery from Poverty of Some Villages Towards the End of Tokugawa Period, 2014.3.19, Waseda University

新村 聡, Is Adam Smith an Egalitarian? International Conference, 2014.3.19, Waseda University

石井 穰, Hayek's Ricardo Effect and the Ricardian Tradition, Conference on New Development on Ricardo, 2013.9.9, Ecole Normale de Lyon, France

渡会 勝義, The Basic Theory of David Ricardo, Conference on New Development on

Ricardo, 2013.9.9, Ecole Normale de Lyon, France

新村 聡, Adam Smith's Four Views on Economic Equality and Inequality, Eshet Conference, 2013.5.16, Kingston University, London.

〔図書〕(計2件)

Atsushi KOMINE, Keynes and his Contemporaries, 2014, Routledge, 190

小峯 敦, 江里口 拓, 創生期の厚生経済学と福祉国家、ミネルヴァ書房、2013, 372

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

渡会 勝義 (WATARAI, Katsuyoshi)  
早稲田大学・政治経済学術院・教授  
研究者番号：80097196

### (2) 研究分担者

新村 聡 (NIIMUE, Satoshi)  
岡山大学・社会文化科学研究科・教授  
研究者番号：00167561

小峯 敦 (KOMINE, Atsushi)  
龍谷大学・経済学部・教授  
研究者番号：00262387

石井 穰 (ISHII, Jou)  
関東学院大学・経済学部・准教授  
研究者番号：10587629

江里口 拓 (ERIGUCHI, Taku)  
西南学院大学・経済学部・教授  
研究者番号：60284478

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：